

教育研究上の目的

食物栄養学科は、科学的な根拠に基づく識見、企画力・指導能力、実践力を備えた感性豊かな食と栄養と健康の専門家となることのできる人材を養成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

食物栄養学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. 科学的な根拠に基づく食・栄養・健康に対する識見を備えている
2. 食・栄養・健康の問題に対して、適切に解決に導くことのできる企画力・指導能力・実践力を備えている

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（栄養学）」の学位を授与する。

①知識・理解・技能（技法）

1. 科学的な根拠に基づいた食・栄養・健康の基礎知識を身につけている
2. 基礎知識をもとに食・栄養・健康に関する、より専門性の高い知識を修得している
3. 実験・実習により修得した基礎及び専門知識を活用した実践力を有している
4. 人々の健康の増進に寄与できる専門家としてのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を有している
5. 健康・栄養状態を改善するプログラムを企画・運営し、栄養の指導の能力を有している

②思考・判断・表現

1. 食・栄養・健康に関わる様々な情報を収集し、客観的に評価する能力を有している
2. 食・栄養・健康に関わる問題に対して論理的に思考し、意思決定できる能力を有している
3. 食・栄養・健康に関わる問題に対して、適切な解決策を提案し、問題解決に向け行動できる能力を有している

③関心・意欲・態度

1. 常に食・栄養・健康に関心を持ち、探究する意欲と態度を有している
2. 食・栄養・健康の専門家として実践力を備え、倫理観を持った専門職業人として社会に貢献し、活躍したいという意欲と態度を持っている
3. 食・栄養・健康の領域において、広い視野と豊かな人間性を備え、生涯にわたり学習する意欲と態度を身につけている

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

食物栄養学科では、科学的な根拠に基づく、識見、企画力・指導能力、実践力を備えた感性豊かな食と栄養と健康の専門家になることのできる人材を養成することを教育研究上の目的とする。そのうえで、人間栄養学を基盤とする食・栄養・健康の専門知識・技能を有し、健康や食生活の問題に取り組み、的確に栄養の指導をできる人材の育成を目指したカリキュラムを実施している。

各領域の学修過程は、次の通りとする。

◆社会・環境と健康

1. 公衆衛生学、健康管理概論、健康情報処理実習、社会福祉概論領域における基礎知識を理解する
2. 公衆衛生学、健康管理概論、健康情報処理実習、社会福祉概論領域における基礎知識に基づき、実験・実習を通して体系的に理解する
3. 公衆衛生学、健康管理概論、健康情報処理実習、社会福祉概論領域における管理栄養士ガイドラインに基づいて専門職としての能力を修得する

◆人体の構造と機能及び疾病の成り立ち

1. 解剖生理学、運動生理学、人間生物化学、医学概論、病態生理学、系統別疾病学、病原物質・微生物学領域における基礎知識を理解する
2. 解剖生理学、運動生理学、人間生物化学、医学概論、病態生理学、系統別疾病学、病原物質・微生物学領域における基礎知識に基づき、実験・実習を通して体系的に理解する
3. 解剖生理学、運動生理学、人間生物化学、医学概論、病態生理学、系統別疾病学、病原物質・微生物学領域における管理栄養士ガイドラインに基づいて専門職としての能力を修得する

◆食べ物と健康

1. 食品学・調理学・食品衛生学における基本的な理論・概念、科学的な考え方について理解する
2. 食品学・調理学・食品衛生学における実践的な方法と専門的知識について習得する
3. 食べ物と健康における管理栄養士のガイドラインに基づいた体系的な理解を深める

◆基礎栄養学

1. 基礎栄養学領域における基礎知識を理解する
2. 基礎栄養学領域における基礎知識に基づき、実験・実習を通して体系的に理解する
3. 基礎栄養学領域における管理栄養士ガイドラインに基づいて専門職としての能力を修得する

◆応用栄養学

1. 栄養状態や心身機能に応じた栄養管理（栄養ケア・マネジメント）の基本的な考え方について、講義により理解する
2. 食事摂取基準策定の考え方や科学的根拠について、講義や実習を通して習得する
3. 各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理について、講義や実習を通して習得する

◆栄養教育論

1. 栄養教育に必要な基本的な理論やモデル、アセスメントからはじまる栄養教育プログラムの計画・実施・評価のプロセスなどについて、講義を通じて理解する
2. 実習によって個人や集団を対象にプレゼンテーション能力を身につけ、さらに演習によって個人へのカウンセリング能力を高めて、管理栄養士として人に伝える技術を習得する
3. ライフステージや疾病ごとに異なる特徴をもつ対象者に寄り添い、応用栄養学や臨床栄養学で習得した専門的知識を基礎に、問題解決につながる最大限の支援となる栄養教育ができる能力を習得する

◆臨床栄養学

1. 傷病者および要介護者に対する、科学的根拠に基づいた栄養管理について、講義により理解する
2. 傷病者および要介護者の栄養管理に必要なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力をグループ学習・発表、ロールプレイ等により身につけ、栄養状態を改善するための栄養の指導の能力を講義や実習を通して習得する

3. 傷病者および要介護者の栄養に関連した問題に対して、論理的に思考し、適切な解決策を提案する能力を講義や実習を通して習得する

◆公衆栄養学

1. 地域・国・地球レベルでの健康増進と疾病予防を目指す栄養政策や活動について講義により理解する
2. 地域社会の健康・栄養問題及び関連要因の把握、課題分析を行う能力を習得する
3. 健康・栄養施策の計画立案、実践、モニタリング・評価、フィードバックを行う公衆栄養管理能力の基礎を習得する

◆給食経営管理論

1. 給食の運営および給食経営管理に関わる基礎および専門知識について理解、修得する
2. 実習により基礎的、専門的な知識を体系的に理解し、給食運営におけるシステム化やマネジメント能力、経営管理のダイナミックな展開につなげる実践的な技術と能力を修得する
3. 給食の運営および給食経営管理に関わる問題に対して、論理的に思考し、解決に向けて意欲的に取り組む態度、適切な解決策を提案する能力を修得する

◆総合演習

1. 臨地実習に臨むために必要な実践的な事項に関して理解、修得する
2. 臨地実習において課題を行うために必要な技術や知識などを修得する
3. 臨地実習終了後に臨地実習で取り組んだことや学んだことをまとめ、発表する技術を修得する
4. 管理栄養士国家試験への対策を行い、合格への知識や技術等を修得する

◆臨地実習

1. 管理栄養士資格取得に必須の講義、演習・実験・実習科目ならびに関連科目の演習、実験・実習について、体系的に理解する
2. 管理栄養士資格取得に必須の演習・実験・実習科目ならびに関連科目の演習、実験・実習について、専門知識と技術を統合できる
3. 管理栄養士として、課題発見・問題解決のための方途を理解し、実践する能力を修得する

◆食物栄養関連科目

1. 各領域に関連した講義・演習を通して、食・栄養・健康の基礎知識を習得する
2. 各領域に関連した演習を通して、食・栄養・健康に関する、より専門性の高い知識や信憑性の高い情報を収集する能力、問題を論理的に思考し説明する能力を習得する
3. 各領域に関連した演習を通して、探求する意欲と態度を身につけ、食・栄養・健康に関する問題解決に向けて行動できる能力を習得する

◆卒業研究

1. 科学的議論を通して、研究やプレゼンテーション能力を養う
2. 自ら設定した課題について、科学的な手法を用いて分析を行い、客観的かつ論理的に表現する能力を養う
3. 食と栄養を通し、人々の健康に貢献するため、課題解決能力と実践力を修得する

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

食物栄養学科では、次のような学生を求める。

1. 科学的視点を持ち、食・栄養・健康についての知識を得ようとする意欲のある女性
2. 実践活動に率先して取り組み、人々の幸せに貢献したいという意欲のある女性

また、入学後の学修の基盤として、次の知識や能力が求められる。

①知識・技能

1. 管理栄養士の国家試験で問われる栄養や健康に関する知識を習得し、合格するために必要となる、高校の学びの基礎知識を有している
2. 化学基礎と化学（※化学Ⅰ）の基礎的な知識を習得している
3. 生物基礎と生物（※生物Ⅰ）の基礎的な知識を習得している

②思考力・判断力・表現力

1. 資料（文章・データ等）から課題や問題点を見つけ、改善するための考えを伝えることができる
2. テーマについて自分の体験などを通して考えを文章で伝えることができる
3. 質問に対して臨機応変に答えることができる

③主体性・多様性・協働性

1. 集団の中で他者を理解することができる
2. 集団の中で自分の考えを他者に伝えることができる
3. 課題に対して他者と協働して取り組むことができる